

研究発表

第一日

幼児の発達と

保育期間との関係 (その二)

幼年教育研究所

守屋光雄

姫路工業大学

釘宮冴子

姫路短期大学

高橋洋子

幼稚園における保育期間の長短が、幼児の心身の発達に、いかなる影響をもたらすであらうか。

今回はまず、昭和三十二年五月に一年保育二年保育の入園時、三年保育二年目の園児について、前回同様、K式発達検査(京都市児童院)、幼児体力検査(児童母性研究会)、社会生活能力検査(牛島義友)の諸検査をおこない、更に、昭和三十三年三月に同じ被験者について同様の諸検査をおこなった。その中、次頁の二つの表に示すごとき場合についてのみ述べる。被験者の大部分は、明石市B幼稚園児、少数が、姫路市J及びF幼稚園児である。人員は、各テストにより多少異なるが、男女各テスト共合せて百名、全テストを通じて約三百名である。

第一表は、一年保育入園時と、二年保育の一年目の終りの検査結果の比較である。兩者共生活年令は同じであるが、後者は、すでに一年間幼稚園で保育を受けたものである。男児では、体力検査の中とび片足跳び、けんすいにおいて、女児では、ボール投げ、男児共では連続片足とびにおいて有意の差がみられた。

第二表は、二年保育児入園時と三年保育児一年目終りとの比較である。兩者共生活年令は同じであるが、後者は、やはり、すでに一年間幼稚園で保育を受けたものである。男女共体力検査の中とび、ボール投げ、けんすいにおいて、男児では重量運搬片足とび、女児では疾走において有意の差を得た。

全体を通じて、有意差のあるものは共通している。これをすべて、保育効果と断定することは出来ないが、保育期間の長いものに、このような差がみられたことは興味あることである。

社会性の発達と

保育期間について

安田女子短期大学

友末亮子
稲田準子